

8 指導計画 (9時間扱い)

過程	時	主な学習活動	留意点 (・) 支援 (○) 評価 (●)
1次	2	<p>1 自分の成長のあしあとを振り返る。 ・ 今までの成長でどんなことがあったのか、家族にインタビューしてきたことをレポートにまとめ、発表原稿を作る。 ・ 名前の由来、幼い頃のエピソード等を写真を用いて発表する。</p> <p>2 発表の様子を評価する。</p>	<p>・ 生まれたときの話や小さい頃の写真を実物投影機で映し出し、発表させる。 ・ 自分や仲間の成長を振り返ることで、今まで成長させてきたものに気づかせる。 ○ 人前で発表することに慣れていない生徒には、そばに付き添い、発表原稿を読むように伝える。 ● 自分の成長や生活に関わる人々に支えられてきたことに気づき、その人たちに感謝の気持ちが持てる。</p>
2次	1	<p>1 幼児の遊びの役割について知る。 ・ 幼い頃、どんな遊びをしていたか発表する。 ・ 体を使った遊び、考えながら行う遊びなど、いろいろあることに気づく。</p> <p>2 遊びを通して、幼児はどんな能力を身につけているのか考える。</p> <p>3 幼児とのふれあい交流学习についての説明を聞く。</p> <p>4 幼児が来校するまでに準備しておくことを理解する。 (プログラムの構成)</p> <p>①手遊び歌部門 「はじまるよ」「グー・チョキ・パー」「カレーライス」の歌など。</p> <p>②読み聞かせ・紙芝居・ペープサート部門 3つの内のいずれかを選ぶ。</p> <p>③ダンス部門 『マルモのおきて』主題曲にあわせて踊る。</p> <p>④手作り遊具部門 ポンポンテニス、泣いた赤青鬼、空気ロケット、輪投げ、ボーリング等。</p> <p>⑤プレゼント部門 折り紙で作ったこま、メダル。</p> <p>⑥企画部 各クラスのプログラムの司会進行 この部門は、他の部門と兼ねる。 ※いずれに所属してグループごとに活動する。</p>	<p>・ 小さい頃にはどんな遊びをしていたのか、いろいろな遊びを想起させる。</p> <p>・ 生徒の発言を生かして、遊びの役割を整理する。その時には、遊びの分類がしやすいようにカードを用いる。 ● 幼児の遊びの特徴を理解できる。</p> <p>・ 今年度より新しい企画として、幼児とふれあう体験学習の必修性について簡単に説明し、日時・園児94名が学校に来ることを伝える。 ・ 新しい企画なので、プログラムの構成は、教師側から提供することにした。 ・ 袖ヶ浦市に配属されている図書館司書教諭と連携して指導にあたる。 ・ 図書館司書に手遊び歌を紹介してもらい、興味を持たせる。2回目は一緒に歌ってやらせる。 ・ 読み聞かせ、紙芝居、ペープサートを紹介してもらおう。それぞれの留意点を黒板に書き出す。 ・ 動くおもちゃなど、本で何種類も紹介してもらおう。 ・ マルモダンスはすでに2年生の自然体験学習で全員が踊れるので、ビデオを見ながらオーバーアクションで歌って踊れるようになるまで踊り込むことを指示をする。 ・ 各クラス18~20名程度の園児が来ることを伝え、プレゼントを準備させる。園児はピカピカした物が大好きだと言うことを幼稚園の先生が言っていたことを伝える。 ・ 企画部に所属する人は、臨機応援に対応でき、会の司会進行が上手な人を選ばせる。 ・ 自分の特性を生かして、所属したい部門を決めさせる。 ○ 人数配分に調整が必要なときは助言する。 ・ 部門ごとに必要な道具をチーフにあげさせ後日教師が購入してくることを伝える。 ● 交流学习について理解できる。</p>

過程	時	主な学習活動	留意点(・) 支援(○) 評価(●)
3次	3	<p>1 各部門ごとに練習及び作業を行う。</p> <p>①手遊び歌部門 ②読み聞かせ・紙芝居・ペープサート部門 ③ダンス部門 ④手作り遊具部門 ⑤プレゼント部門 ⑥企画部</p> <p>2 授業の自己評価をする。</p> <p>3 幼児とのふれあう際に安全面で気をつけることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみ (服装・髪の毛・爪・ハンカチ・ティッシュをポケットに入れておく) ・マナーや行動について ・園児との関わり方の確認 <ul style="list-style-type: none"> ①目線を低くする。 ②言葉づかいを丁寧に。 ③笑顔で話す。 ④危険箇所に注意する。(階段など) ⑤力加減に気をつけるなど。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手作り遊具は、製作時間・安全性などを考慮して製作させる。 ・読み聞かせ・紙芝居・ペープサート部門は、役柄に応じて声に変化をつけさせたり、途中で歌を盛り込むと園児は喜ぶなど、図書館司書にアドバイスをいただく。 ・ダンス部門は、踊る前の呼びかけ、笑顔で大きな動作を踊ることを指示する。 ・手遊び歌部門は、図書館司書からポイントを伝授される。 ・プレゼント部門は、配色を考えさせ、すぐに壊れないものを製作させる。いくつか予備を作っておくとよいことを指示する。 ・企画部門は、会の司会と役割分担を決めさせる。その他に全体会の司会もあるので、他学級と合同で昼休み等を使って会議を開く。 ○取組が不十分な生徒に声かけしていく。 ・各部門ごとにリハーサル、学級全体での通し稽古を行わせる。学年家庭科の時間を設定する。 ・短時間での練習及び製作なので、時間が足りないところは、放課後や休み時間を使うことを指示する。 ・毎時間の授業で自己評価させる。 ●グループで見通しを持って進められる。 ●安全面に配慮して製作できる。
4次 本時	2	<p>1 幼児とのふれあい交流学習の実施</p> <p>2 お迎えをし、全体会の会場へ連れて行く。</p> <p>3 全体会を体育館で行う。</p> <p>4 各会場に分かれて、学級ごとにプログラムの発表をする。</p> <p>5 お別れの会</p> <p>6 トイレタイム</p> <p>7 見送り、片付け</p> <p>8 評価と反省、感想など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園児との関わり方の留意点を確認する。 ・園児を困むように座わせ一緒に始めの会を行わせる。 ●全体会の司会進行がスムーズにできる。 ・活動場所や内容、遊具の使用法など、活動計画に沿って交流しているか机間指導する。 ○幼児との交流が進められずにいる生徒には、周りの友達を参考にしたり、幼稚園の先生の幼児との接し方を観察させたりする。 ●課題解決に向け、幼児に関心を持ち、適切に関わるとしている。 ●幼児の状況に応じて、接し方や話し方、遊び方などを工夫しながら交流をしている。